

長野県生活交通確保維持改善計画に「諏訪湖周スワンバス (外回り線・内回り線)」を位置付けることについて

1. 現状と課題（総論）

- ・諏訪湖を周回するスワンバスについては、JR バス関東株式会社、諏訪交通株式会社の協力の下、現在、諏訪市・下諏訪町・岡谷市の3市町共同で運行。
- ・スワンバスの沿線には、官公庁、金融機関、温泉・スポーツ施設等の公共施設に加え、各市町村の総合病院（岡谷市民病院、諏訪赤十字病院、諏訪共立病院）や商業施設があり、スワンバスを利用し、市民・町民が地域を越えた行き来をするとともに、諏訪圏内に訪れる観光客の観光・宿泊施設を往来する移動手段としても利用されている。
- ・スワンバスの運行に当たっては、乗務員不足等により、令和元年12月に外回り線において、公共交通事業者間の業務移管が行われるなど、公共交通を取り巻く環境は厳しい。
- ・スワンバスの運行経費の一部を毎年3市町において財政支援しているが、近年における急速な人口減少・少子高齢化に伴い、地方行政の財政状況は厳しくなることが懸念される。
- ・このような中、持続可能な運営体制の構築、地域住民等の生活交通手段の確保維持を図るためには、3市町及び公共交通事業者が連携して利用促進に向けた取組を強化し運行収入を増加させることに加え、更なる財政的支援策を検討する必要がある。

＜スワンバスにおける利用者の推移＞

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
利用者数 (人)	85,182	58,646	61,581	64,842	65,484	67,461	69,653

※コロナウイルスの影響により、令和2年度から利用者が減少。

その後は増加傾向にあるが、コロナ禍以前の利用者数より少ない状況。

2. 対応策

国土交通省及び長野県による補助制度「地域間幹線系統確保維持改善事業」（別紙参照）を引き続き活用することにより、当路線の維持を図ってまいりたい。

3. 協議事項

各運行事業者による「地域間幹線系統別確保維持計画（別紙）」を、県で策定する「長野県生活交通確保維持改善計画」に位置付け、地域間幹線系統補助対象路線として財政支援を受けてまいりたい。

（本路線は令和3年度地域間幹線系統確保維持計画から位置付けられた）